

花ちゃん、オー君、モンタ博士のかくかくドキドキ立ててく4

国立市立国立第七小学校

平成28年11月30日 NO.74 (374)



リュウノウギク

花の直径は2.5～4cm。外側には白い舌状花が並び、真ん中の管状花は黄色。

オー君 「^{うえ}上の^え絵は、^{なん}何という^{しょくぶつ}植物ですか。」

モンタ博士 「リュウノウギクという^{なまえ}名前の^{しょくぶつ}植物だよ。」

花ちゃん 「ひょっとして、^{のぎく}野菊の^{なかま}仲間ですか。」

モンタ博士 「そうだよ。^{のぎく}野菊だ。^{のぎく}野菊というのはね、^{さいばい}栽培している^{きく}キクでなくて、^{やせいじょうたい}野生状態
で^は生えている^{きく}キクなんだ。よくに^{しゅるい}た種類があって、^{ちいき}地域によってもさまざま
なものがあるんだよ。」

花ちゃん 「^{のぎく}野菊といえば、ユウガギク、ノコンギク、カントウヨメナなどがありますね。」

オー君 「ふーん。いろいろあるんだ。それで、こいつはリュウノウギクというのか。
でも、どうしてこの名前がつけたの。」

モンタ博士「それでは、二人とも葉を少しちぎって、自分の鼻でククンと、葉っぱの
においをかいでごらん。」

オー君 「においをかいで観察するんですね。いつもの体全体を使って植物を観察す
るんですね。」

花ちゃん 「ククン？ククン？」

オー君 「ククン？ククン？」

花ちゃん 「ほんのりといい香りがしますね。」

オー君 「うん。いい香りだ。ククンククン、いい香りだ。」

モンタ博士「この野菊の名前は、その香りからつけられているんだ。リュウノウギクと言っ
てね、漢字で書くと『竜脳菊』となるんだ。中国や東南アジアに竜脳樹と
いう木があってね、その木から取れる香料と同じような香りなんだ。」

オー君 「いい香りだ。本当にいい香りだね。こんなにいい香りだと体にいいのかな。」

モンタ博士「体にいいか？・・・いいところに気がついたね。竜脳樹という木から取れ
る香料は、ボルネオールといわれて、むかしから、薬などに使われたり、
お風呂に入れたりして、体にとってもいいそうなんだ。」

オー君 「体にいいのか。なるほど。『薬』という文字は、『草』かんむりに『楽』だ。
体のいたみが無くなり、体が楽になるということですね。」

モンタ博士「そのとおりだね。ところで、このリュウノウギクなどがみられたり、校庭の木
が『落ち葉の色の展覧会』をするようになると、秋もそろそろ終わりだね。」

花ちゃん 「そうですね。木々の葉っぱが色づいて、そのうち、枯れ葉舞う季節となるん
ですね。『深まりゆく秋』というのも、とてもすてきですね。」

キク科植物

双子葉植物の中で最も進化したもので、世界に23000種、日本には350種が自生していま
す。帰化植物も100種以上あります。種類が多いということは、様々な環境に適応してきてい
るということであり、変異しやすい性質を利用して、いろいろな園芸品種が作り出されています。野
菜では、レタス、シュンギク、ゴボウがあり、油をとるためのヒマワリや薬になるヨモギやジョ
ウギクなど、人間生活に欠かせないものも多くあります。なお、観賞用に栽培されるキクは、奈
良時代に渡来したそうで、その後、江戸時代に改良され多くの品種が作り出されました。